

SWCC 株式会社

2023 年 3 月期決算説明会 質疑応答要旨

実施日時：2023 年 5 月 16 日(火) 10 時開始

実施場所：東京都千代田区丸の内一丁目



構造改革について

[Q]：今後の構造改革余地について教えて欲しい。年々構造改革による新規の増益貢献額が下がっているように思える。

[A]：2023 年度の営業利益の増減要因に記載している構造改革 2 億円は、昨年一部立ち上げ遅れがあった通信ケーブルの国内生産拠点の再編効果が今期にずれ込んでいる分である。今後の構造改革効果については、持株会社から事業会社へと会社の体制を変更し 3 社を 1 社に統合したことでだいぶ効率の良い運営ができるようになっており、その効果が今後収益に貢献してくると見ている。2023 年度の効果については当期予算策定時点では数字に落とし込めておらず、今回の計画には入れてない。就任から 5 年経ち、1 周目の事業構造改革は、だいぶ終わってきたと思っているが、事業環境が 5 年前と変わってきているなか、収益性の低い事業をどうしていくか、もっと収益が取れる事業をどう伸ばしていくかといった事業ポートフォリオの見直しは必要であると感じている。2021 年に公表した中期経営計画は今年で 2 年目となるが、事業環境が相当変化しているため、今年下期にかけてローリングを予定している。たとえばエネルギー・インフラ事業は、中期経営計画策定当時よりもだいぶ事業環境が良くなってきており、既に 2026 年度の中計最終年度目標に近いところまで到達している。プラスの要因だけでなくマイナスの要因ももちろんあるため、そこを考慮した上で中期経営計画のローリングをしながら、さらなる構造改革を進めていきたいと思っている。

エネルギー・インフラ事業について

[Q]：2023 年度の計画が 2022 年度実績と変わらない背景を教えて欲しい。

[A]：2023 年度の計画については保守的に見ている。銅価格変動の影響も含め様々な事業環境の変化を見込んでいる。2022 年度は原材料価格高騰を跳ね返すだけの販売価格転嫁および原価低減を実施できたため収益率は上がっているが、この原材料価格高騰が落ち着いてきたとき

にどういふ影響があるのかということも不透明なため少し固めにみている。一方、電力インフラ事業に関しては、当社の強みが生かせる領域であるため、ここが伸びていけばその分しっかりと収益は上がってくるとみている。エネルギー・インフラ事業セグメントは、毎年目標値をクリアしており、当社の成長牽引事業となっている。固めの目標ではあるが、しっかりと目標を超えていけるようにと考えている。

電力インフラ事業について

[Q]：今後の電力インフラ事業の成長イメージについて教えて欲しい。

[A]：資料 30 ページ目の左図は老朽化してきている変圧器の台数を示している。変圧器の耐久年数は一般に 50 年といわれているが、中期経営計画の期間、それから 2030 年度にかけて次々と老朽化更新需要の山を迎えることが図から見てとれる。レベニューキャップ制の導入により、電力会社は電力インフラに対する投資を後ろ倒しにすることなく計画的に実施し、電力インフラ網を守ることが求められている。そのため老朽化更新については、この先も安定して需要が見込めると認識している。大型風力の案件については、主な工事の開始時期は 2024 年度以降とみている。この工事案件が出てくれば、北海道や九州から電力を首都圏に運ぶといった電力インフラ網の増強案件が併せて出てくるとみている。この事業については、追い風となる国策が多数あることから事業拡大が見込めると考えており、追加投資の必要性を感じている。戦略としては大手競合と同じフィールドで勝負するのではなく、当社が強みを持つ領域で勝負することを考えている。当社の強みを生かせる領域でしっかりとシェアを取り、収益性を落とさずに売上、利益を上げていくという戦略をこれからも続けていく。

電装・コンポーネンツ事業について

[Q]：2022 年度の下期から 2023 年度上期にかけてと、2023 年度上期から下期にかけての自動車の生産動向のゆくえをどう見ているのか教えて欲しい。

[A]：2022 年度下期は非常に悪かった。当期予算を立てた時点では 2023 年上期はその状況が続くと想定している。ただ最近、少し回復に向かっているという話も出ている。一方 2023 年度下期の回復については、一番状況の良かった 2020 年度、2021 年度上期のレベルまでは戻らないとみている。特に利益率の高い高付加価値製品の回復には少し時間がかかるとみており厳しめの想定をしている。一方、高付加価値製品の巻線が伸びてくれば、今の利益率以上には上がってくるとみている。

通信・産業用デバイス事業について

[Q]：2023年度の計画の背景を教えてください。ここも保守的にみているのか？

[A]：少し保守的に見ている。コロナが明けて、巣ごもり需要の剥落が事務機器の分野で大きかった。同様に白物家電においてもそれなりにインパクトがあったため、海外で言うと1月から3月にかけての1Qの弱さを計画に入れている。当社はワイヤハーネスを作っている工場が中国とベトナムに3カ所あるが2カ所については現状だいぶ回復してきている。販路拡大の必要性がある工場もあり、その部分を今強化している。

ワイヤハーネス事業について

[Q]：家電分野の回復が遅れているようだが、2023年度の計画では、海外家電用ワイヤハーネスの事業環境の良化だけで改善するとみているのか、それとも追加的な施策を織り込んでいるのか教えてください。

[A]：2023年度の計画については、家電用の伸びと一部産業用の伸びを付加しているが、これから成長牽引事業として投資していく車載向けは計画としては織り込んでいない。

事業ポートフォリオの最適化について

[Q]：一般汎用巻線・線材が再構築事業に入っている。ここにメスを入れた際の事業への影響を教えてください。

[A]：一般汎用巻線・線材は非常に付加価値が低い。そのため、中期経営計画の策定時のポートフォリオシフトにも掲げているとおり、タイミング見て、再構築していくべきと思っている。線材は、当社で荒引線にした半分をxEV向け、半分を建設全般に配分している。xEV向けの需要はこれから回復が見込め、かつ建設全般も安定した市場であるため、一般汎用巻線・線材の外部への販売分が仮になくなったとしても、大きく生産構造を変えるというところまでは至らないと思っている。

以上